

専徳寺報

第429号

平成29年1月15日発行

浄土真宗本願寺派

専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

http://sentokuji-iwakuni.net/

専徳寺

検索

ついでに礼拝〔月のはじまりはお寺から〕次回…2月1日(水)。午前9時より45分間。正信偈和讃・法話。どなたでもお参りできます。

御正忌報恩講法要

御案内

ご開山・親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ、一年で最も大切な法座です。三日間、万障くりあわせてご参詣ください。

日時

1月26日(木)	昼1時半～3時半
27日(金)	昼1時半～3時半 夜7時半～9時
28日(土)	昼1時半～3時半

講師

26日………前住職

27日・28日…本願寺派布教使・輔教

安方 哲爾 師 (大坂)

◆お斎料は500円、地区割りは

26日…灘 地区 (11時半～13時)

27日…通津地区 (11時半～13時)

※28日のお斎はありません。

◆御伝鈔拝読：27日昼座と夜座

親鸞聖人のご生涯を曾孫の覚如上人が書きつづられた『御伝鈔』を拝読します。

◆大速夜と万灯会 27日夜座

聖人のご臨終を偲ぶ厳肅な法座です。

◆仏具回収：ご家庭でご不用となった仏具(お念珠、

仏壇の荘厳具等)を回収いたします。

●聖典、聴聞カードもお忘れ無く。

●法話中の帳場受付はお休みです。

慚愧

み光のうちにすむ身のおろかにも
死ぬてふことは淋しかりけり

足利義山

よろこびの日に日に近くなりゆくを
よろこびえざるわが心かな

おどりあがりよろこぶべきをよろこばぬ
われをあはれとみそなはすらん

辞世

生まれずは覚らじとこそ誓ひてし
弥陀の御国へ今ぞゆくなれ

『義山法語』(百華苑、1985年)より



如来・人・言葉

104

病によって得たもの

海谷則之

『大無量寿経』には、

善悪報忘し、禍福あひ承けて、身みづからこれに当る。たれも代るものなし。

（『註釈版聖典』七〇頁）

というきびしいお言葉が出てきます。これは、よいことも悪いことも自分が身に承けていくしかないということでしょう。これを蓮如上人は『御文章』に、

まことに死せんときは、かねてたのみおきつる妻子も財宝も、わが身にはひとつもあひそふことあるべからず。死出の山路のすゑ、三塗の大河をばただひとりこそゆきなんずれ。

（『註釈版聖典』一一〇〇頁）

とおっしゃっています。

手術の入口までは六親眷属（親族縁者）がついて来てくれますが、中に入

ると独りになってしまふのです。

わたしは食道がんの手術（※平成十年）のとき、声帯の神経まで切つてしまいましたので、声帯の半分は動かず、時おり息苦しきや喉の渴きなどを感じることがあります。しかし、だれも代わつてはくれません。

学生時代から親しく声をかけていただいた先生に、村上速水和水上（一九一九—二〇〇〇）がおられます。わたしが龍谷大学に奉職するようになって五年余り経った、昭和五十二年十二月、先生は文学部長に就任されましたが、ご多忙とご心労が重なって、翌年一月に脳血栓で倒れました。四ヶ月ほど入院されていましたが、思いも寄らない失語症になられたのです。



先生はその著『病に生かされて 親鸞を慕う人生』に、「病んでみて、生かされてるよろこびをしみじみと感じた」と書いておられます。広島出身のご法義あつい主治医から、僧侶である先生の方が「正信偈」などのおつとめを教えてもらうことになったのです。

大切なお念仏すら出なかつた先生でしたが、頭にしみ込んでいたお経の言葉の一つひとつが、少しずつ先生の口について蘇つてきました。

無性に法話が聞きたくなられた先生は、退院されてから東西本願寺など、聞法の間へ足を運ばれたのです。また言葉の練習のつもりで、昔、記憶した足利義山和上（一八二四—一九一〇）の『義山法語』を声に出して朗読していると、ありがたくなつてきて急に念仏がこみ上げてきたとおっしゃっています。

念仏者には、病とともに生きてゆく中で信心の利益に恵まれた方が、たくさんいらつしゃいます。その一人に、二十七年間、声のない生活をしていかれた高千穂徹乗和上（一八九九—一九七五）がおられました。

和上は、熊本城の近くにある仏蔵寺の長子として生まれられました。十歳のときにご尊父が三十七歳で亡くなり、ご母堂は四人の子どもを抱えてたいへん苦勞されました。地元の中学校々々（現済々高等学校）を卒業後、仏教大学（現龍谷大学）に進み、その後、

大学の教員としてご活躍されたのです。

しかし、昭和二十三年の夏頃から声が嘎れるようになり、十月にはまったく声が出なくなりました。病院で喉頭がんとわかったのです。翌年三月、声帯の全摘手術をされました。全身麻酔での手術ではなく、部分麻酔でがんをえぐり出す手術であったため、大きな痛みを伴うものだったといえます。幸いに術後二十日ほどで退院となりましたが、先の見えない不安をかかえながら、日々自ら体を通して無言の身業説法をつづけていかれたのです。

そのとき執刀医をなさった鰐淵健之先生（一八九四―一九八九）は、その著『額帯鏡』のなかで、

人間として最も大きな苦痛をなめ、声の出ない不自由をしのんで苦難の道を生きていくことは、一命をとりとめても、死にまさる苦しみであろう。私自身も、これが医師として最良の治療であったかどうか、疑わざるを得なかった。

（村上速水前掲著、二〇七頁参照）

と記しておられます。和上は、病を縁としてたとえお念仏を称えることさえ

できなくなろうとも、それをわが身の在りようとして受け止め、いよいよ阿弥陀如来の招喚の喚び声をいつそうよろこばれたのです。

村上先生はこう書いておられます。

（高千穂和上は）黙々として笑顔を絶やされなかった。あの笑顔の底にどれほどの苦悩が秘められていたか。こんな不自由な体になって、はじめて和上の心情が思いやられる。どんなにか苦しく悩まれたであろう。

（『同』八六頁）

村上先生が「私は病いによって失ったものを悲しむよりも、病いによって得られたものをよるこびたい」（『同』二頁）とおっしゃった言葉にわたし自身を重ね、見えないところで頑張ってくれている声帯やさまざまな臓器や器官に感謝しながら、日々を送っています。

（『このいのちを生きて』（二〇一六年、

本願寺出版）より）



台所（通称「サロン」）完成

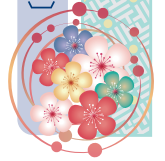
昨年の8月末から工事していた門徒会館の台所と土間。先月、改装が完成しました。フローリング（板の間）にしたので、靴に履き替えずに移動できます。法事や法座でのお齋作りがとても便利になりました。

「サロン」と呼ぶことにしました。ご門徒同士の交流の場としても利用していきたいと思えます。法座の中休み等、宜しければご覧ください。



寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕



11月8日御往生

保津 赤崎 設様 (100)

喪主 赤崎 隆子様

11月18日御往生

青木 別廣 初江様 (59)

喪主 別廣 隆実様

11月29日御往生

保津 村田津和子様 (84)

喪主 村田 金吉様

12月13日御往生

青木 岩中アサコ様 (84)

喪主 岩中 和男様

●ご恩を偲び〔法事勤修〕(11月7日〜12月)

【通津】藤重秀男13、村中俊朗7、古川求50・50、米本徹治100、藤重宏幸1、田村俊輔17、松井源輝1、藤岡キヨ子13、【保津】山下誠一3、赤崎隆子25、水上明彦7・17、松重正夫25、【青木】藤中英毅100、広田尚志3、【黒磯】森本公之1、石原秀昭17・25・50、【藤生】藤中輝夫50、山中愛子7、【南岩国】山西賢司100、今本進13、中村雅彦3、山尾美津子3・7、【市内】左伊木満夫3、山本正輝1、今西桃太郎1、【鎌倉】銀雅一25

●ありがたくぞんじます

永代経志納

尊い永代経志を賜りました。謹んでお供えいたします。

●七回忌のご縁に

金 壹拾萬円也 本呂尾 村中 俊朗様

専徳寺納骨堂受付中(パンフレットが本堂にあります)

●ご案内いたします

岩国組主催「伝灯奉告法要」 団体参拝旅行

でんとうほうこくほうよう

伝灯奉告法要とは、新しいご門主の就任、真実のみ教えが伝えられた事を仏祖の御前に告げられるとともに、お念仏のみ教えが広く伝わることを願ってご本山(西本願寺)で勤修される法要です。

新ご門主就任の大法要に参詣した後、

日本最古の温泉、有馬温泉で宿泊します。

次の日は神戸から船で岩国へ戻ります。

【期間】 5月16日(火)〜5月17日(水)の一泊二日

【代金】 4万5千円 (部屋は相部屋です)

【申込】 専徳寺まで

お電話ください

☎08271381124



有馬温泉



法要の様子

●ご報告いたします

「宗門総合振興計画 推進懇志」

しゅうもんそうごうしんこうけいかく

「宗門総合振興計画」は新ご門主就任を契機に立てられた二〇〇億円を要する大きな計画です。

昨年八月にお願ひした懇志ですが、一月十日現在、「四二八万五千円」となりました。目標額にかなり近付いて参りました。尊い懇念、勿体なく存じます。懇志は四月末まで受付たいと思います(二戸一万円)。

法要余香 (永代経法要 11月24・25日)

【講師】服部法樹師。【参詣者】24日:昼座115名・夜座35名、25日:昼座73名。

【お鉢米】津村昌広、半田正昭、岡迫博人

【お供物】河村アサ子

初日の早朝、お寺近くの道路で事故が発生。電柱が三本倒れました。半日続いた大渋滞をくぐり抜け、多くの方がご参詣くださいました。誠に有り難うございました。

ご講師の服部先生は二回目のご縁でした。「真実」について楽しく味わい深くお取り次ぎくださいました。

専徳寺倶楽部冬の集い (12月17日)

数日前から続いた雨もあがり、当日は快晴。煤払や溝掃除、庭木の剪定等、境内をすみずみまで清掃できました。夕方の懇親会も楽しく。

【参加者】秋嶋進一、浅井佐、小方基史、冲原政裕、賀屋国昭、吉柴伸一、白田直則、白田憲光、多山博通、半田正昭、藤重秀男、増本英一郎、増本真一、村中紀一郎、森上博之、森田幸一、(懇親会より)松重吉英、村中久子、半田洋美、森田京子、吉柴恵子、吉柴奈保子

